

訳者あとがき

夏が終わりを迎えようとしている2020年8月末、春から続いていたベトナム統計年鑑2018年版の邦訳原稿を脱稿したが、今年は年初からCOVID-19の歴史的な感染禍が発生し、その中での翻訳・監修作業となった。例年統計年鑑の翻訳・監修作業を通してベトナムの経済発展について考察するが、今回は、この感染禍から思わぬ形でベトナムという国の根本についても考えるきっかけを得たように思う。ベトナムは世界でもCOVID-19の感染を抑え込んだ国として評価されているが、その背景には徹底的な感染者の追跡と隔離、水際での防疫対策があり、感染者が発生すると住所や氏名の公表、周辺地域・集合住宅単位での隔離、民間施設（ホテル、学校など）の隔離用施設としての提供など、個人や民間企業活動の自由が制限される対策も行われた。この背景には、COVID-19の感染禍が戦争と同様にとらえられ（*Chống dịch như chống giặc*）、ベトナム国民が一致団結してこの非常事態に対応したことがある。自由が制約される政策に対しては、ベトナム国民からも不満が出るかと思われたが、実際にはベトナム政府の政策に対する国民の評価は高い。国家の非常事態に対するベトナム国民の一致団結した姿勢は、ベトナム戦争を乗り越え、戦後の貧しさを分かち合う平等のもとで発展に向けて勤しむかつてのベトナムの人々の姿勢を彷彿とさせる。こうした国民が国家に協力する姿勢は、ベトナムの経済発展の根源にあるような気がしてならない。

また2020年の初頭はメコンデルタ地域で大規模な旱魃が発生、農作物が植え付けられた水田や畑は塩害で著しい損害を被り、水不足から飲料水にも事欠くようになった。COVID-19の報道に隠れた部分もあるが、ベトナムではCOVID-19の問題とならぶ深刻な問題となっている。旱魃は自然災害の問題として見なされる向きもあるが、今回の旱魃はメコン河の国際河川としての性質が影響しているともされる。すなわちメコン河上流の中国で築かれた大規模ダムの貯水の影響も指摘されたのである。これは旱魃のリスクがさらに高まっていることを意味する。

以上のように2020年に発生し、現在も影響を与える問題を踏まえて2018年版の統計年鑑を見ると興味深いことが浮かび上がってくる。例えばCOVID-19の感染禍において、ベトナム政府が感染拡大を抑え込むための政策にここまで注力したのは、従来から言われているベトナムの医療資源の量と質に対する不安ということもあろう。ベトナム統計年鑑2018年版においても医療統計は医師数や病床数など医療資源に対するデータがよくまとめられており、読者の関心が高いことが想定されている。その他、自然災害や交通事故、司法のデータも近年の統計年鑑では編纂に力が入れていることから、過酷な旱魃や洪水、交通事故の頻発、訴訟社会の到来など、環境問題や経済発展の負の側面に人々の関

心が及んでいることがわかる。さらに今回の2018年版では企業統計の主たる対象は、事業を通し実際に業績をあげている企業となっている。経済発展の担い手を企業に置くベトナム政府の明確な態度を反映しているように思われる。

和訳にあたっては、用語の選択等、細心の注意を払っているが、統計年鑑の越語、英語原文において明らかな誤植と判断され、読者の混乱を招く可能性がある箇所、もしくは統計概念や表の解釈に必要な箇所には、適宜「訳注」を加えている。この統計年鑑の邦訳が、ベトナムに関心をもつ多くの方々の一助になることを願ってやまない。

最後に日本語版の出版において、ビスタ ピー・エスの酒井洋昌氏には出版に至るまで大変お世話になった。ここに謝意を表したい。

2020年8月
グエン ティ タン トゥイ
高橋 墨